■ 修学旅行の思い出 ［ 7 月 5 日(火)～7 月 8 日(金) ］

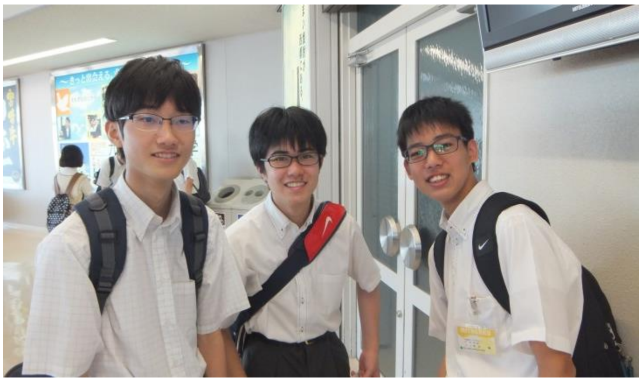
本年度の修学旅行も無事に終わりました。たくさんの笑顔と学びがあった 4 日間でした。特に印象的だったのは、今年の3年生の好奇心の強さ、学習意欲の高さです。目的意識を持って、私たち職員の予想をはるかに超えて、熱心に施設見学や大学生へのインタビューなどを行っていた光景が大変印象的でした。

教員も含め団員 71 名という大所帯でしたが、大きな事故やケガもなく元気に帰って来ることができたのでよかったです。

＜初日：奈良公園(東大寺・大仏殿)→宇治・平等院鳳凰堂→清水寺→京都宿泊＞

早朝 6 時 30 分集合。遅刻する人もなく、スムーズに出発式を行うことができました。出発式では、吉村校長先生からの激励のお言葉もいただきましたが、わくわくした気持ちを抑えながら、空港という公共の場での振る舞い方を考えてしっかりと行動できる 3 年生に感心しました。

チェックインも無事に通過し、この笑顔です。

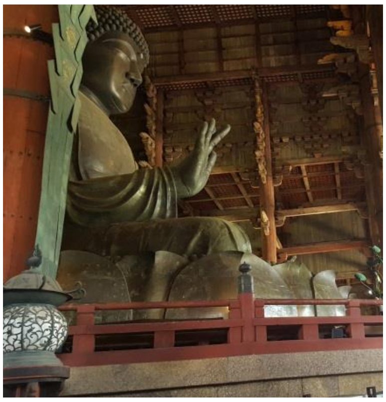


残念ながら今回は行きの飛行機が別々になってしまいましたが、それぞれの飛行機の中でも、到着ロビーでも静かにマナーを守って過ごしていました。

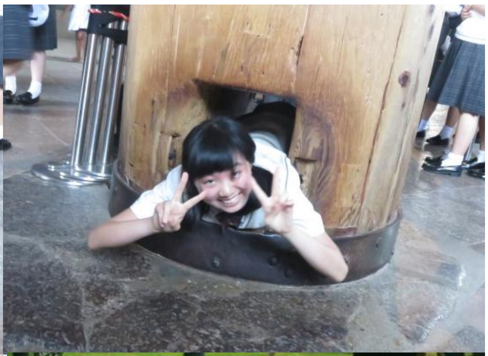
S 組と同じ飛行機には、市内のある中学校の修学旅行生が乗っていましたが、荷物を待っている間に仲良くなった女子は、一緒に記念撮影をしていました。社交的な本校の女子らしいですね。

さあ、空港で待っていた観光バスに乗って、いざ奈良公園へと向かいます。

奈良公園に到着する頃には、気温36度。しかし、皆、元気です。一番感心したのは、ガイドさんの話を聞かずにふざけたり、よそ見をしていたりする人が一人もいないことでした。早くも、いい修学旅行になりそうな予感がしました。



東大寺大仏殿ではお馴染みの「柱くぐり」ですが、今年は柱のところに大勢の外国人観光客が並んでいたので、数名しかくぐることができませんでした。しかし、チャレンジャーはいるものです。

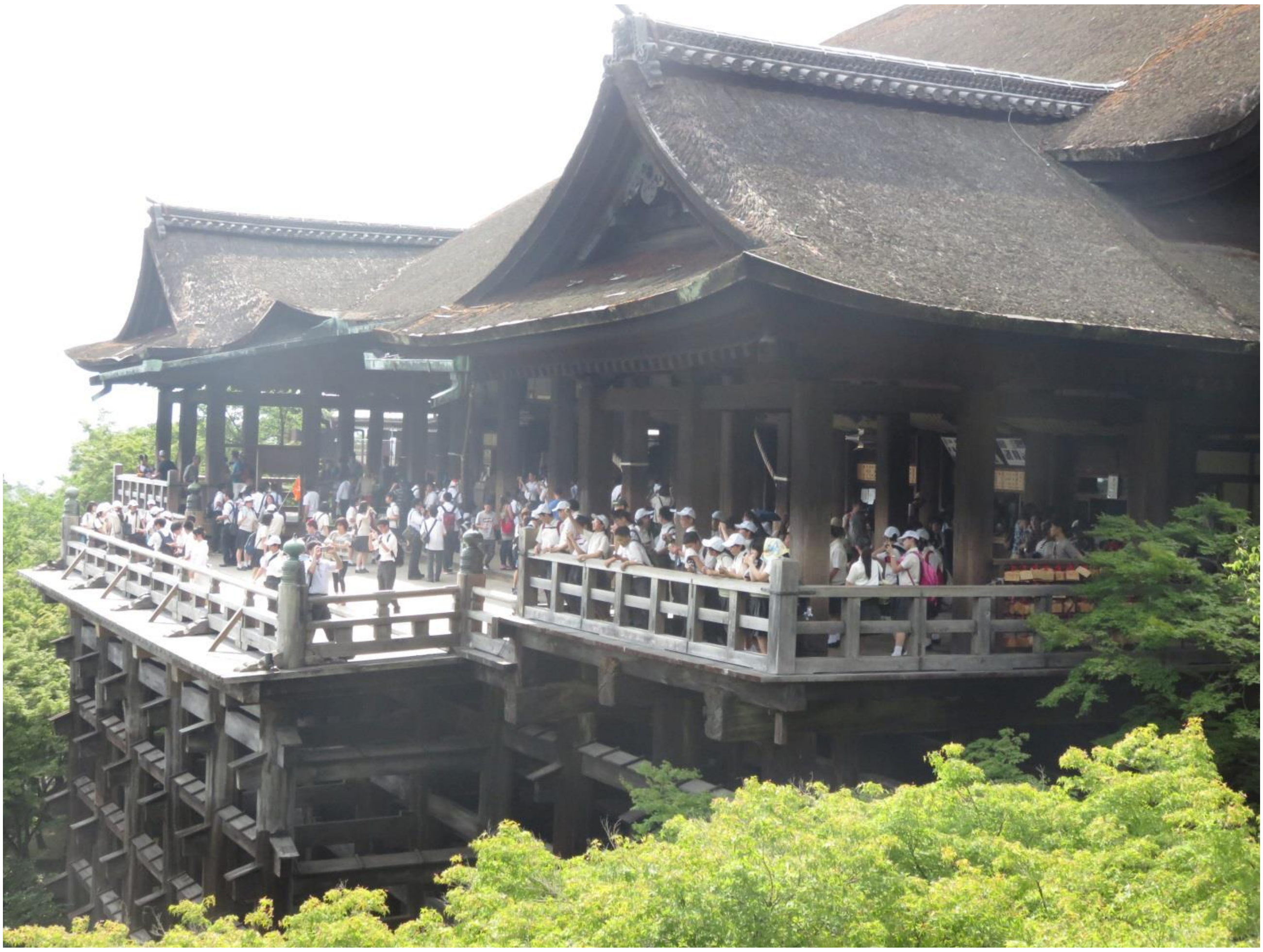


大仏殿を出て、集合写真を撮った後は、しばし鹿との戯れの時間。しかし、この日の気温はすでに38度。さすがに早々にバスに戻ってくる生徒が多かったですね。

お昼は、宇治にある喜撰茶屋で食事を取りました。皆、お腹が空いていたようで、天ぷらと湯豆腐もペロリとたいらげていました。男子には少し量が少なかったようですが、美味しかったと好評でした。

食事の後、世界遺産でもある宇治平等院鳳凰堂を見学しました。藤原一族の栄華を今に伝える平等院と平等院ミュージアム鳳翔館も訪ねました。数年前に訪れたときには色あせてしまっていた柱や屋根瓦は、平安時代の赤や黒の独特の風合いに復元されていました。生徒たちは、「いい景色～」とか「みやびぃ～」などと言いながら、一生懸命写真を撮っていました。

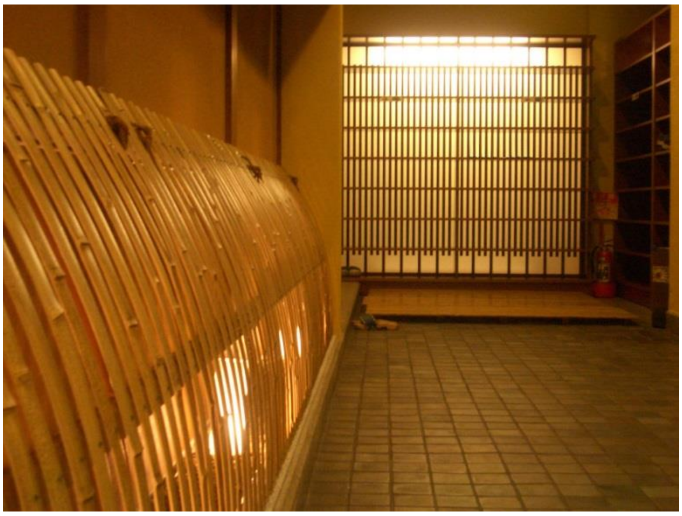
次に向かったのは、京都の名所、清水寺です。昔、鹿を捕まえるために山に入った坂上田村麻呂は、 鹿を探している時に綺麗な水を見つけ、その水源を探すうちに、延鎮上人と出会ったそうです。 その時、「殺生はいけませんよ」と教えられ、それに感銘を受けた坂上田村麻呂がお堂を滝の近くに建てたのが、現在の清水寺の始まりとされています。照りつける太陽の下、そんな話を聞きながら、清水の舞台に上がり、音羽の滝の前まで移動して一旦解散し、駐車場まで自由行動となりました。



清水の舞台を出てすぐ左手にあるのが、縁結びの神様で有名な地主神社。境内に設置してある「恋占いの石」で、運試しをしている人もいたようですね。

清水寺の御門前からは清水坂にそって店舗が連なっています。皆、思い思いにお土産を買ったり、冷たい飲み物を飲んだりと、楽しそうでした。

清水寺を出発し、17：20頃に京都駅の真ん前にある松本旅館に到着しました。今年は大通りにある旅館でしたので、大型バスを2台とも正面に横付けすることができました。長時間停車できないため心配しましたが、生徒たちが大変機敏に移動してくれたので助かりました。



そして、ロビーで最初の班長会です。班長さんたちは、疲れも見せずにしっかりと説明を聞き、各部屋へと上がっていきました。写真は、旅館の方の説明を聞いているところです。

そして、待ちに待った夕食です。焼き肉とエビフライ、グラタンにミートボールなど、盛りだくさんです。「お腹空いたぁ！」「好きなもんばっかりやぁ～～！」「おぉ～、でっかいエビフライ！」などという声があちらこちらで聞かれました。

夕食後入浴して、各自自由時間です。交流スペースを一部屋準備していただきましたが、皆、UNO やトランプなどで楽しそうに盛り上がっていました。本当に仲の良い3年生です。

CHAMPION BALLERS
phiten

UNO

WHATEVER FLOATS

＜2日目：京都・班別自主研修＞

昨日の疲れも見せず、時間通りに皆広間に集まりました。集合状態もとてもよかったです。写真は、今朝の朝食です。食欲のない生徒がいないか心配でしたが、よく食べているようでひと安心。中にはおかわりをする生徒も結構いたようです。

さあ、皆が楽しみにしていた班別自主研修です。寝坊するものもなく、時間通りにしっかりと出発していきました。今日一日お世話になるタクシーの運転手さんとしっかりとあいさつをすませ、軽い足取りで各ジャンボタクシーに乗り込んでいました。

班別研修の行き先は各グループで事前に時間をかけて決めたコースです。運転手さんからアドバイスをもらいながら、皆、それぞれの行程を楽しんでいました。（暑い中、子どもたちと一緒に回ってくださった運転手の皆さん、ありがとうございました。）

BATMAN
BERKELEY

チェックポイントは金閣寺でした。

みんな笑顔で旅館に帰ってきました。体調を崩す人も、喧嘩する人も、愚痴を言う人もなく、いい研修ができたのだということがわかりました。運転手さんとの別れを惜しんでいる人もいたようです。いい思い出になりましたね。みんなが仲良くしっかりと研修を終えてきた様子だったので、夕食までの1時間半を京都駅近辺の自由散策の時間にしました。それぞれ京都駅前の広い地下街や京都タワーの見学をしてきたようでした。

さて、2日目の夕食はすき焼き！　皆とってもうれしそうでした。あちらこちらで「肉ぅ～～！」「肉だぁ～！」という声が聞こえていました。

あちらこちらで、鍋奉行が場を仕切っていました。本当になごやかでよい雰囲気です。職員も声を荒げることもなく、安心して見ていることができました。

わいわいと楽しい食事を終えたあとも、「残滓が出たらもったいない！」と、たくさんの人たちがお鍋を囲んで食べていました。味もとってもよかったそうです。しっかり活動して、しっかり食べて、しっかり眠ったことが、今回の修学旅行成功の鍵でしょう。

先生方は、食事も落ち着いて食べることはありません。食事もそこそこに「修学旅行のしおり」の点検を頑張りました。その日の日記やお小遣いの出納帳まで、みんなで手分けして点検し、朱書きを入れました。皆、きちんと記録していたのでよかったです。

一方、班長さんたちは毎晩このようにして会議を行いました。今日の反省、今後のスケジュールなど、詳細な情報をこまめにメモして、各部屋の班員の皆さんに連絡してくれました。班長さんたちが責任を持って仕事をやり遂げてくれたおかげで、今年は何一つ叱ったり、注意をしたりする場面がありませんでした。感謝しています。

また、この日夜には、今年京都府立大学に入学した卒業生が、旅館まで会いに来てくれました。

＜3日目：京都大学→人と防災未来センター→メモリアルパーク→大阪宿泊＞

3日目のメインは京都大学でのインタビューです。今日は徹底して真面目に学習する日として位置づけてあります。子どもたちの表情も心なしか引き締まっていたようです。十分な睡眠がとれているからでしょうか。今日の朝食も、皆、しっかりと食べていました。

朝食後は、各部屋を皆で清掃して先生方のチェックを受けましたが、どの班も立派でした。荷物をまとめてロビーに降り、代表のイブラヒムさんが、2日間お世話になった松本旅館の方にお礼のあいさつをしました。

さあ、京都大学に向けて出発です。京都大学では、一人あたり3名の現役京大生に声をかけ、インタビューをしなければなりません。とっても緊張している人、わくわくしている人、ちょっと面倒くさいなあと思っている人など、内心はそれぞれでしょう。そんな様々な思いを乗せて、バスは出発しました。

京都大学のキャンパスでは、最初なかなか思うように大学生に声をかけきれずにいた人たちも、勇気を振り絞ってチャレンジする中で、話が盛り上がったり、親切にしていただいたりしながら、徐々に面白くなってきたようでした。中には、大学生や教授と30分以上話し込んでいる人たちもいて、驚きました。本当に皆、熱心でした。

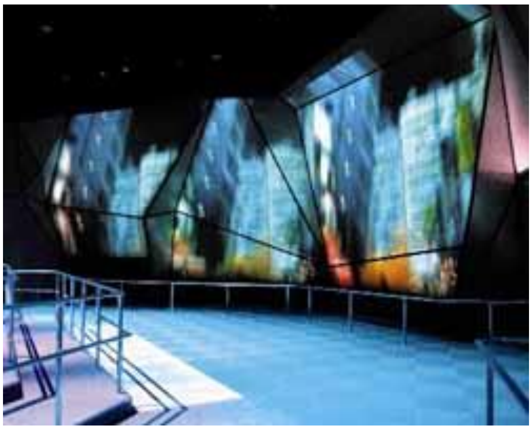
駐車駐輪禁止

京大生協 中央食堂

この日の昼食は京都大学名物の「総長カレー」です。なんでもこのカレーを食べると頭が良くなる？というジンクスがあるそうです。少し辛めのカレーでしたが、皆、汗を拭き拭き美味しそうに食べていました。レストランは冷房が効いていて涼しいのですが、食事もそこそこに、また炎天下インタビューをしに出かけて行きました。「先生、僕、すっごく刺激を受けました。」「なんか、頑張らんといかんなあって思いました。」「京大生は、時間の使い方がうまいんだなって思いました。」「大学って面白そうです。」などと言いながら出かけて行く姿を見て、頼もしく感じました。１人当たり2人以上のノルマをはるかに超えて、10人近くの学生にインタビューしている人たちもたくさんいたようです。

3S・3T

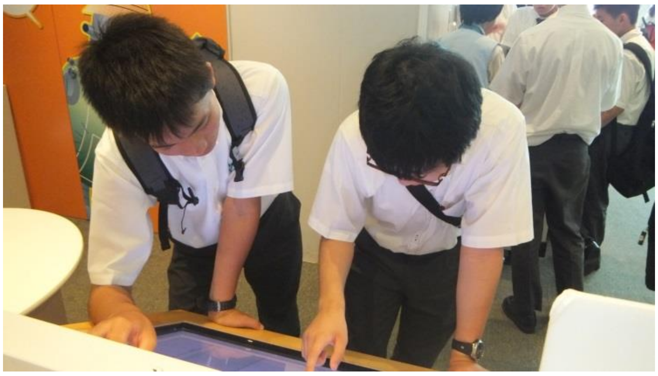
続いて訪ねたのは、神戸市にある「人と防災未来センター」です。例年、炎天下での修学旅行3日目の午後といえば、誰しも疲労が出てくる頃です。しかし、今年の3年生は立派でした。真剣で学ぶ意欲が旺盛で、友達と連れだってなんとなく回るのではなく、しっかりと課題意識を持って自主的に学習していました。さすがです。



閲覧方法
テーマナンバー
キャプションナンバー検索
情報閲覧
You can find out more about the photographs displayed on the walls at the Earthquake Disaster & Recovery Display.

閲覧方法
テーマナンバー
キャプションナンバー検索
情報閲覧
You can find out more about the photographs displayed on the walls at the Earthquake Disaster & Recovery Display.

ハンディガイド

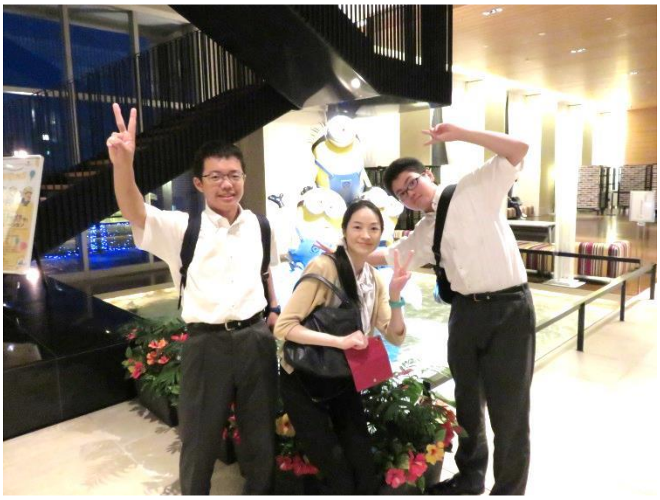


基本
品目

次に訪れたのは、メモリアルパークです。神戸港震災メモリアルパークは、神戸海洋博物館の東に立地。メリケン波止場の一部を阪神・淡路大震災で被災したままの状態で保存しています。 神戸港の被災状況や復興の過程を広く後世に伝える事を目的としてつくられたそうです。 私たちの目にも、地震の衝撃が伝わって来ました。

しっかりと学習を終えた一行は、いざ、大阪へと向かいました。これまでは、バスの移動中も、ガイドさんの話にしっかり耳を傾け、少し疲れが見え始めたので、今回はバスガイドさんの解説もポイントだけに絞っていただいて、1時間ほどゆったりとした時間を過ごしました。そして、いよいよ待望のユニバーサルスタジオジャパンのオフィシャルホテルに到着しました。

ホテルの目の前がユニバーサルスタジオジャパンです。ここでの宿泊はそれぞれ2～4名ずつの部屋割りとなっており、部屋同士の行き来は禁止されていましたが、皆、ルールをしっかりと守り、マナーを守って過ごしてくれました。



さて、お楽しみは夜のビュッフェ。とびきりのご馳走に皆、大喜びしていました。もちろん、一般のお客様に迷惑をかけないように、マナーをしっかりと守って食事をしている姿を見ながら、誇らしくさえ感じました。本当に美味しい料理でしたね。

今夜の宿泊先は、京都で宿泊した旅館と違って、たくさんの一般のお客様がいらっしゃるホテルです。部屋同士で行き来したり、廊下でおしゃべりしたりすることはできません。食事が終わった7時半以降は、部屋でじっとしていなければいけないというルールでしたが、これまでの3年生の行動や学習意欲を大いに評価して、希望者は近くのユニバーサル・シティウォークまで、30分ほど外出を許可しました。もちろん先生方も一緒です。半数ほどの生徒が出かけました。明日のユニバーサル・スタジオ・ジャパンでは思いっきり遊ぶため、お土産を先に買っておくという人もいました。運良く、大道芸人のショーを見ることができた人もいましたね。また、ホテルでゆっくりと疲れを癒したい生徒たちも静かな時間がとれたようです。

KEIHAN
GAP
UNIVERSAL

CAFE
UNIVERSAL CITYWALK
OSAKA

CHINTAI
KEIHAN
GAP

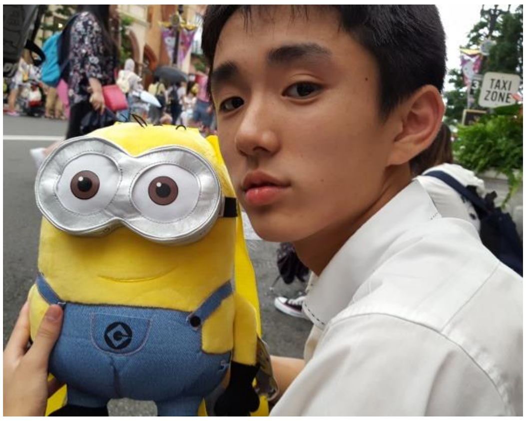
UNIVERSAL
City WALK
OSAKA
SUSHI
WESTERN
CITY

最後の班長会は、保健室として借りていたホテルの一室で行いました。班長さんたちは疲れも見せずに、しっかりと話し合いに参加していました。陰でのこのような努力が、今回の旅行を支えてくれていたようです。

＜4日目：ユニバーサル・スタジオ・ジャパン→伊丹空港→宮崎空港＞

いよいよ最終日です。朝食も時間通りに全員集合して、しっかりと食べていました。やはり、しっかり眠ってしっかり食べることが、今回みんなが元気に過ごせた要因でしょう。ユニバーサルスタジオジャパンでは、開門と同時に皆、思い思いに自分の狙っていたアトラクションに向けて走っていました。時々出会う生徒たちの顔は、皆、キラキラしていて本当に楽しそうでした。

BRING


TAXI
ZONE

BALLROOM
DANCING
adidas

伊丹空港への高速道路で事故があったため、迂回路での移動となりましたが、伊丹空港へ無事到着しました。空港ではまず、解団式を行いました。学年委員長の久保田　揮くんが、お世話になった添乗員さんや看護師さんにお礼の言葉を述べ、生徒たちからのささやかなお礼の品をお渡ししましたが、看護師さんは少し涙ぐんでいらっしゃったようでした。本当にありがとうございました。

「まだ帰りたくなぁ～い！」という声が聞かれる中、
たくさんの思い出と心地よい疲れを乗せて
19:55 発　ANA511便は、宮崎空港に向かいました。
お迎えに来ていただいた保護者の皆様、ありがとうございました。